

授業公開

1. 企画趣旨・目的

教育の質向上を目指す諸活動の一環として、例年実施されている教員相互の授業公開を令和6年度も実施した。

教員相互で授業を見学することにより、各教員の授業の改善・向上を図るとともに、本学のディプロマポリシーとの関連を明確にし、指導と評価の一体化を図る機会とすることを目指す。本学での学生の学びを可視化すること、科目同士の関連や到達度に配慮した授業展開に向けて、学生が身につけるべき三つの資質・能力と、第四次教育体制において新全学ディプロマポリシーに謳われる教育評価の三要素の対照マトリクスにおける9観点を授業見学の視点とした。

2. 実施概要

①見学期間（事前に授業担当者と交渉することで期間外の見学も可能）

2024年6月4日（火）～12月23日（月）

*昨年度は後期のみの実施であったが今年度は前期から実施した。

*昨年度と同様に学科ごとの授業公開・見学期間は撤廃して実施した。

②見学対象科目 原則、すべての授業科目が対象。

*1つ以上の授業を見学する。

*「英語コミュニケーション応用」は見学対象外とする。

3. 見学記録の結果

参観者数について

のべ109名の参観者数であり、昨年度より23名増加した（専任教員84名、非常勤教員9名、職員16名）。昨年度の授業公開に関して、実施の時期や期間について、前期と後期もしくは通年公開の要望が例年にも増して多く寄せられたこともあり、今年度は前期からの実施としたが、非常に好評であった。今後も通年での公開を基本とすることを提案する。

見学・参観科目の領域とディプロマポリシー（9観点）について

見学・参観科目の領域内訳と重点的に指導されていると思った資質・能力（3つ選択）についてグラフで示す。今年度は共通科目および児童教育学科、社会情報デザイン学科、幼児教育学科、文芸文化学科の専門科目の見学・参観が多かった。共通科目については、前期から実施したことで、後期にはない授業が見学できて有難いという意見が多く見られた。学科専門科目については、授業形態（演習、講義、実験・実習）までは示されていない。重点的に指導されていると思った資質・能力（3つ選択）と、各授業科目のシラバスに示されたディプロマ・ポリシーを比較することで、より具体的な到達目標の検討や学生の実態に即した学びの可視化に結び付くものと考えられる。

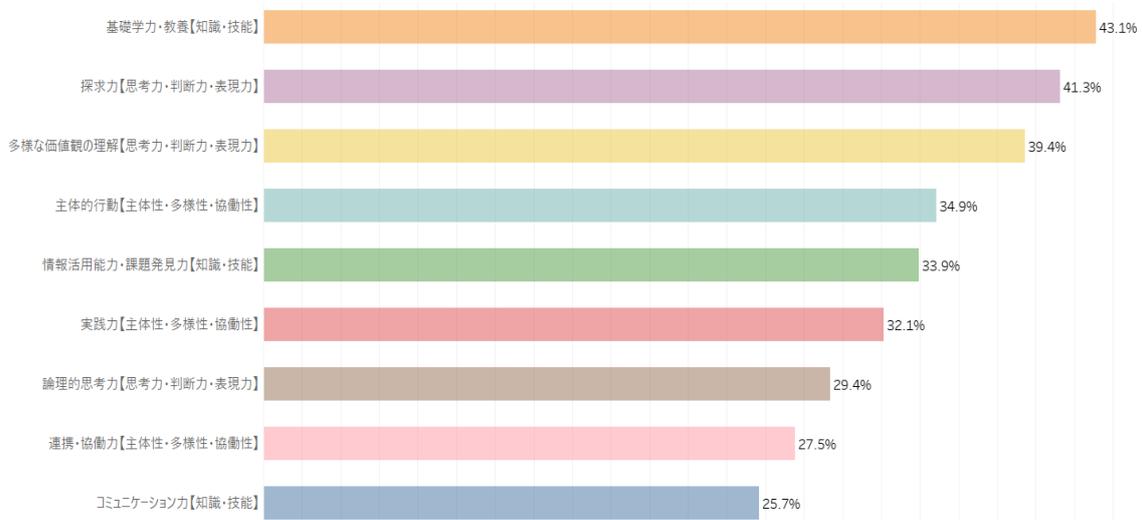
科目の領域内訳

※青字：共通科目（26） 赤字:専門科目（83）

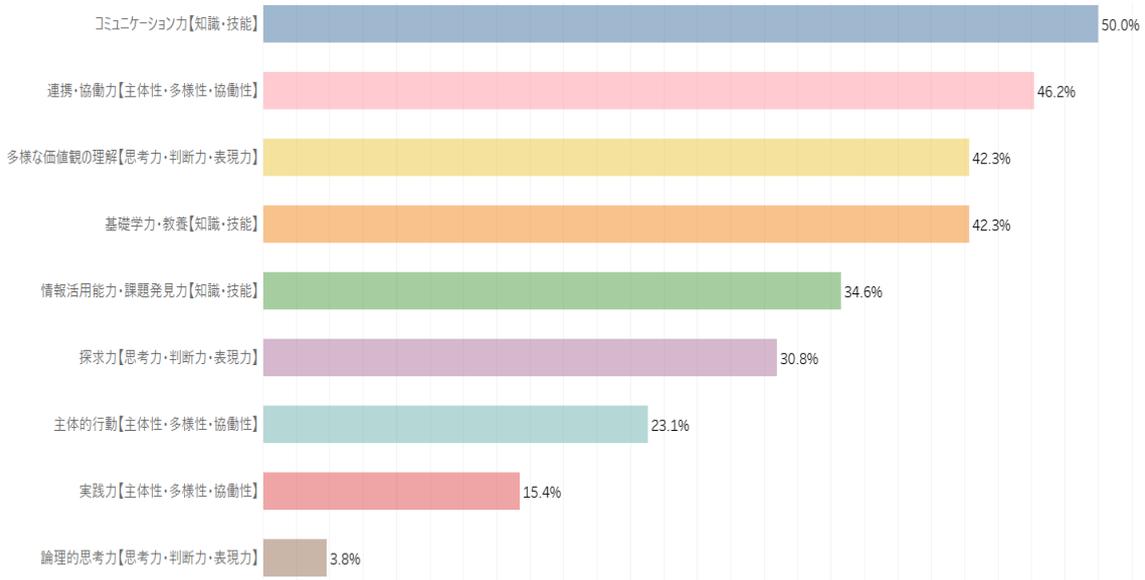
| | |
|-----------------------------|------------|
| 共通科目 | 18 |
| 共通科目 (英語コミュニケーション演習・外国語) | 8 |
| 図書館司書課程 | 1 |
| 健康栄養学科 | 9 |
| 食物栄養学科 | 6 |
| 食品開発学科 | 1 |
| 人間福祉学科 | 7 |
| 幼児教育学科 | 12 |
| 児童教育学科 | 17 |
| 心理学科 | 4 |
| 文芸文化学科 | 12 |
| 社会情報デザイン学科 | 14 |
| 総計 | 109 |

見学した授業で重点的に指導されていると思った資質・能力（3つ選択）

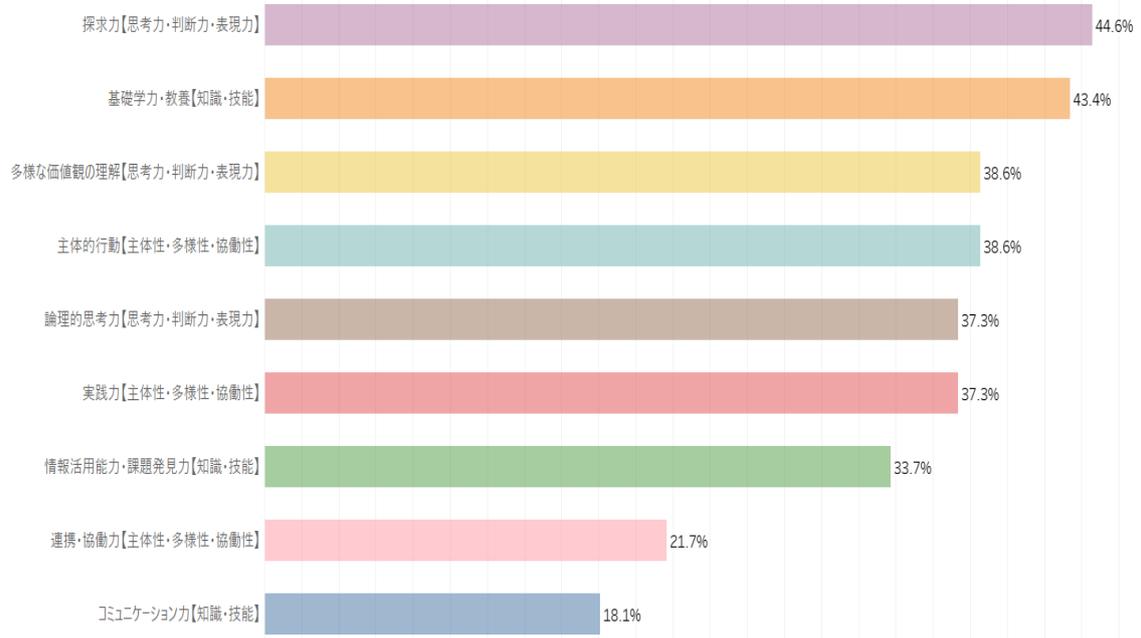
全体（109）



(共通科目) 26



(専門科目) 83



授業について参考になった点・印象的な点（授業見学者による記述から）

授業見学者による記述は、学生の主体的な学修に向けた工夫、授業者の姿勢について触れられたものが多かった。

主体的な学修に向けた工夫として、グループ活動に適した人数分け、カードやシートの利用、クリッカー回答、知識定着や具体的なイメージを促すための写真や動画使用、授業開始

時に前回のリアクションペーパー紹介など、授業に対するモチベーションを高めるための具体的な方法として多く挙げられた。また授業の流れを止めない、かつ学生を飽きさせないために、教員が事前準備（教材、授業プランなど）を十分に行っていることと、その重要性についての指摘も複数見られた。

授業者の姿勢としては、小さなことであっても学生の良いところ、出来たところを「ほめる」姿、教員の意図しないものであっても学生の取り組みを評価し否定的な言葉を使わない、学生に対する優しく語り掛ける口調、温かい雰囲気、丁寧な説明や言葉遣いなどが挙げられた。授業方法として参考になったと記載した中には、学生の興味を引くような話題提供、学生の理解を把握するために頻繁に問いかけをする姿、抑揚のある声、テンポのある話し方、一つ一つの授業を丁寧に実施することの大切さなどが見られた。

授業に参加している学生の姿についての記述も見られる。熱心に耳を傾けて頷きながら話を聞いており、授業を楽しんでいる様子、学生同士が活発に意見交換している様子、興味を持って積極的に学んでいる姿、まじめに真剣に取り組んでいる姿、といった内容が挙げられた。

授業公開・授業見学の意義

授業見学・参観は、他の教員の授業方法や具体的な指導方法のよい部分を自身の授業実践に取り入れ、よりよく高めるために不可欠な時間である。同時に「他の教員の授業方法に学ぶことが多くあることはもちろんだが、自身の授業とは異なる学生の姿を見ることで、学生理解の場としても活用している」という意見に見られるように、学生について学ぶ機会として有効化することが望ましいと考える。

また、授業公開・授業見学のさらなる発展に向けた記述も見られた。「FD・SD 研修の一環としてはどうか。学生と教員の学びあい、教員同士の学びあい、大学職員も教員や学科の授業内容を知る良い機会となる」「見学後に授業者と見学者が意見交換できる時間があれがよい」「授業見学にとどまるのではなく、その授業をもとにした研究が深まるようなシステムが構築されると、さらに FD 活動の深化が図られるのではないか」といった記述があった。今年度より授業公開が前期からの実施となったが、次年度はこの期間が本学における学びの質をさらに高められるような工夫が求められると考える。